

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.154

2018. 8. 2

発行：平和憲法・9条をまもる

岩手の会 実務者会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL 019-684-2225

FAX 019-684-2227

《あの夏を忘れない！若者からのメッセージ》

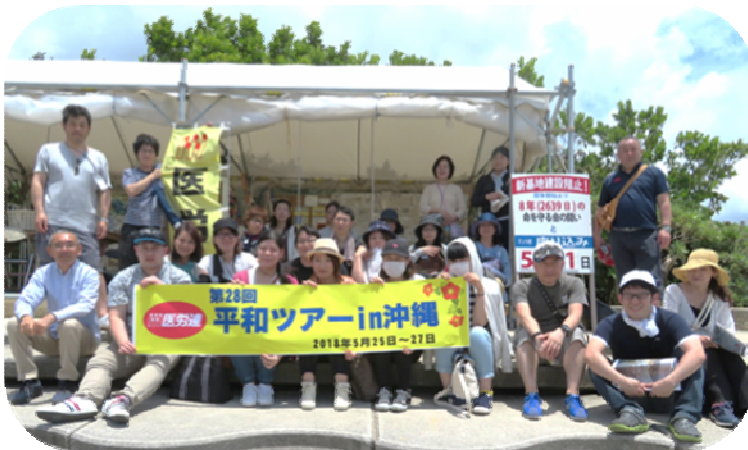
子どもたちに残すのは「平和」か「戦争」か。私たちの活動が重要

岩手県医療局労働組合 砂子田 麻未

終戦から 73 年。当時原爆が投下された広島を含めた西日本で豪雨災害が発生し、多くの被災者が出ている中、安倍政権は「戦争する国」にしようと、憲法 9 条を改憲するため必死になっています。全世界で平和や非核化について注目している中、完全に蚊帳の外状態です。

私は、今年 4 月に県医労の専従となり、まだ仕事の内容もほとんど分からない状態で、5 月に日本医労連主催の沖縄で行われた平和ツアーに参加しました。平和や戦争に関しては、多少理解しているつもりでしたが、実際に行き学んでみると全く知らないことばかりで、驚きや悲しみの連続でした。戦争当時の沖縄の状態、終戦後の闘い等、多くのことを学ぶことができました。日本の米軍基地の約 7 割が沖縄にあるそうです。岩手の 6~7 分の 1 の広さに、日本のほとんどの米軍基地が詰め込まれているのです。それなのに、さらに美しい海のすぐそばで新基地建設がすすめられています。また、街の中心にある

基地にはオスプレイがあり、昼夜問わず飛行訓練が行われ、沖縄の人たちは基地と共に生活していました。そんな中、基地新設反対のため、座り込みを続ける県民の姿や、各地から座り込みの応援に来ている人たちの姿が、とても勇ましく見えました。初めは、デモ行進や署名活動に参加していても私の活動が何かの役に立つのだろうか、という思いがありました。しかし、新基地建設を遅らせている座り込みと同様に、私たちの活動には大きな意



味があるのだと、理解をすることができました。

戦争の悲惨さは、原爆を投下された日本が一番分かっていると思います。しかし、憲法 9 条を改憲することで、戦争ができる国へと変わってしまうのです。戦争をしない国になり、たった 73 年しか経っていません。73 年前は、戦闘機が数多く上空を飛び回り、食料も無く、必要な医療も受けられない状態でした。若者は戦争に、女性も看護要員としてかり出されます。当時の人たちは、戦争さえなければ不自由なく平和に生活出来たのです。今、私たちが不自由なく生活できるのも、憲法 9 条ができ、「戦争をしない国」になったからです。

北朝鮮の攻撃から日本を守るため沖縄に基地は必要だ、と安倍政権は言います。6月の米・北朝鮮首脳会談で非核化について話し合われ、戦争・平和について全世界が注目しました。「戦争をしない国」に基地は必要ありません。自分の子どもたち・未来に平和を残すのか、戦争を残すのか、私たちの活動が重要となってきます。今の生活ができることの幸せと未来の幸せを考え、若い人たちに声をかけて活動に巻き込んでいこうと思います。

8月の署名活動 9日(木) 12:30~13:00 「盛岡市大通野村證券前」

秋の臨時国会まで『3000万署名』大きく宣伝したいと思いますので、是非ご参加ください。

「改憲も安倍政権も今すぐやめて！」750人が参加 「いいね!9条 いやだね!安倍政権 7・1いわて市民アクション」

改憲反対と安倍政権の早期退陣、3,000万署名のさらなる推進を呼びかける集会を、7月1日に盛岡城跡公園で開催。厳しい暑さの中、生協関係、労働組合、市民団体などが参加しました。野党4党の挨拶や西和賀9条の会、いわて生協からのアピールのほか、岩教組青年部による憲法前文と9条の群読を実施。この日は、メインスピーカーとして国会議事堂や官邸前で抗議を続けている「許すな！憲法改悪市民連絡会」事務局次長の菱山南帆子さん



さんがスピーチ。「壁を壊す沸点はもうそこまで来ている。改憲を止め、市民の力で世の中を変えていこう！」と訴えました。また、会場では抗議ハガキを呼びかけ、259通を回収。「民主主義と憲法を壊し続ける安倍政権に改憲を語る資格なし！」などの声を官邸に送りつけました。集会後はピースパレードで、市民にアピールしました。

◇署名は、岩手県生協連にお送りください(上部団体に送った場合は署名数をお知らせください)。

「憲法9条を考える集い」開催を機に再出発！ 一前沢9条の会一

「前沢・憲法9条を守る会」は「多様な思いや願いを総結集したい」ということから、6月2日開催の集いを機に「前沢9条の会」を正式名称として再出発しました。設立時の運営委員や遺族の方に新しい顔ぶれを加えて、50人を超える住民に賛同していただき、当日も40人の参加で、用意した資料も椅子も足りなくなる盛会でした。

チェロ独奏「鳥の歌」、紙芝居「飛ばない飛行場」、講話「なぜ、いま、9条改憲か？」と内容が盛り沢山で話し合いの時間が足りなかったことが次回への宿題となりました。

今後は賛同者への入会呼びかけと署名活動に加え、平和の鐘などにも参加して地域の協力共同を進め、平和への願いを次の世代に確実に継承していきたいと思います。(岩渕俊樹)



コラム＝ 「米朝首脳会談」後1か月過ぎましたが、気がかりなことが…

2018年6月12日シンガポールで「米朝首脳会談」が開催され、早1か月が過ぎました。これは歴史的なものであったことは、前回書きました。その後、同共同声明に基づいて、米朝協議が進展しています。加えて、南北協議も順調に進んでいます。戦争ではなく「平和の外交」の進展、とても良いことではないでしょうか。取敢えずではあっても「平和外交」が行われている間は、戦争が行われません。

しかし、米朝首脳会談後に日本国内で行われた世論調査の結果で、「朝鮮半島の完全な非核化は実現すると思われる」と答えた方が野党支持層も含めてかなり高率でした。これでは、安倍政権は安心して引き続き「対話否定」「圧力一辺倒」の外交を行っていくのではないのでしょうか。実際、国際社会から「日本は平和のプロセスを妨害している」と批判も出ている様に、気がかりでなりません。

朝鮮半島での平和のプロセスの開始は、日本国内での日本国憲法を守り生かす運動、3千万署名運動、ヒバクシャ国際署名、核兵器禁止条約批准推進運動と安倍退陣要求運動に大いに役立つものだと思います。

機会がある度に朝鮮半島の平和のプロセスの成功に期待を表し、日本国民の平和の世論を高めましょう！

そして、2020年東京オリンピックに、南北統一旗を掲げて韓国・北朝鮮のチームが合同入場行進をして来た時には、非戦と平和を唱える日本国憲法の下、私たち国民は万雷の拍手をもって迎えましょう。(T)